

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人サントリー芸術財団	
施設名	サントリーホール	
内定額	29,102	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		351	352
年間事業本数（※1）	主催事業	42	42
	公演事業	20	20
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	人材養成事業	9	7
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	普及啓発事業	9	10
	（内、本助成対象事業本数）	0	5
	その他 内容： 共催事業	4	5
貸館日数	ホールごとの貸館日数	524	542
	ホール名： 大ホール 座席数： 2006	305	322
	ホール名： ブルーローズ（小ホール） 座席数： 380～432	219	220
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	81,912	93,684
	公演事業	30,185	29,439
	人材養成事業	2,625	1,834
	普及啓発事業	26,747	33,680
	その他 内容： 共催事業	22,355	28,731
	貸館事業入場者・参加者数	532,796	563,521
	その他 内容： 記入してください	0	0
	計	614,708	657,205
施設の利用率(%)		100.0%	100.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	38	70	59,557	77.9%		38					
	共催・提携公演（※2）	4	19	22,355	86.1%		4					
	貸館公演（※3）	524	524	532,796	66.0%		524					
	計	566	613	614,708								
令和6年度	主催公演（※1）	37	66	64,953	83.9%		37					
	共催・提携公演（※2）	5	22	28,731	89.1%		5					
	貸館公演（※3）	542	542	563,521	68.0%		542					
	計	584	630	657,205								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	サントリーホール チェン バーミュージック・ガーデン 2024	目標 値	6,373	83.3%	①聴衆の満足度	・アンケートの5段階評価で 上位2段階(「とても満足」 「満足」)の回答が90%以上 ・SNSでの感想や、接客ス タッフが受ける当日または 事後のVOC情報における 高評価計10件	・来場者アンケート満足 度:97.9% ・公演当日に接客スタッ フが受けた高評価:2件 ・SNS(X)における高評価: 14件	入場者数および有料入場者数はわずかに目標に届かなか ったものの、来場者アンケートの満足度は目標値を大きく上回 る成果をあげた。 批評数も目標を上回り、専門誌4誌ではフェスティバル全体の レビューでおおむね高評価を得、中でもCMGプレミアム 小菅 優プロデュース『月に憑かれたピエロ』はその企画と演奏両面 が高く認められ、単独で読売新聞のほかにもロンドンの世界 的なクラシック音楽専門情報サイトbacktrackでとりあげられ、 4つ星という高い評価を獲得した。さらに音楽の友2月号「コン サート・ベストテン2024」において第13位に選出された。 本事業は第37回(2024年度)ミュージック・ペンクラブ音楽賞 (室内楽・合唱部門)を受賞した。内外の一流の団体による ベートーヴェン弦楽四重奏曲の全曲演奏チクルス開催、室内 楽アカデミーの優秀な修了生グループの起用といった長年の 実績に加え、「優れたアーティストが常連となり、人脈を広げて いることも頼もしい」(選考委員・山崎浩太郎氏による受賞理 由より)企画の代表例として、上記の『月に憑かれたピエロ』公 演が受賞理由の中で言及された。		
		実績 値	6,360	83.1%	②専門家による批 評掲載数およびそ の内容	掲載5本以上でおおむね高 評価	批評11件すべておおむね 高評価 ・新聞3件(読売新聞夕刊 6月21日付、岩手日日&徳 島新聞 7月7日付) ・専門誌5件(音楽の友9月 号、音楽現代9月号、サラ サーテ8月号、モーストリー クラシック9月号、音楽の友 2月号) ・国内WEB1件(毎日クラ シックナビ 6月9日) ・海外WEB2件(backtrack 6月10日・6月19日)			
公-03	サントリーホール サマー フェスティバル 2024	目標 値	4,369	67.0%	①聴衆の満足度	・アンケートの5段階評価で 上位2段階(「とても満足」 「満足」)の回答が80%以上 ・SNSでの感想や、接客ス タッフが受ける当日または 事後のVOC情報における 高評価計8件	・来場者アンケート満足 度:80% ・SNS(X)における高評価: 9件	入場者数および有料入場者数ともに目標には届かなかった が、有料入場者数合計は前年比105.8%と、前年度(同一公 演数)を上回る結果となった。 来場者アンケートでは、「例年よりプログラムが充実していた」 「曲が良く演奏も良く大満足」「ステージの演奏者の覚悟の高 さ、客席の聴く覚悟の高さ、この雰囲気感激」といった高評 価の一方で、芥川也寸志サントリー作曲賞の公開選考の進 め方に疑問を呈する声も複数あった。 批評数も目標を上回り、今年度の「プロデューサー・シリーズ」 のプロデューサーを務めた現代音楽を牽引し続けるヴァイオ リンのレジェンド、アーヴィン・アルディッティの演奏ぶりにつ いては、音楽評論家の鈴木淳史氏が「国宝級の工芸作家の域」 と評した(9月5日付 朝日新聞夕刊掲載)。また、音楽の友2月 号において、音楽ジャーナリストの渡辺和氏が選ぶ「ベスト・ アーティスト2024」に、アルディッティ弦楽四重奏団とテーマ作 曲家のフィリップ・マヌリが選出された。さらに、芥川也寸志サ ントリー作曲賞で作品が演奏された若手作曲家について、音 楽評論家の齋藤俊夫氏は芸術批評サイト Mercure des Arts で「自らの音楽の存在根拠を(中略)あくまで自分の内にある 〈自然〉に求めることができるたくましくも軽やかな世代が来 た」と評し、日本の現代音楽シーンの活性化に期待を寄せた。		
		実績 値	3,567	54.7%	②専門家による批 評掲載数およびそ の内容	掲載5本以上でおおむね高 評価	批評12件すべておおむね 高評価 ・新聞2件(朝日新聞夕刊 9月5日付、毎日新聞 9月 15日付) ・専門誌7件(音楽現代10 月号、モーストリークラシ ック11月号2件、音楽の友11 月号、音楽現代1月号、音 楽の友2月号2件) ・国内WEB3件(毎日クラ シックナビ 8月23日・9月6 日、Mercure des Arts 9月 15日)			

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①(発信力・影響力)ホールHP内公演特集ページのPV数	①(公-01)CMG 10万以上(前年比100%超え／前年度実績:99,962) (公-03)サマーフェスティバル 6万以上(前年比100%超え／前年度実績:56,961)	①(公-01)CMG:85,359(前比85%) (公-03)サマーフェスティバル:53,707(前比94%) ※令和6年6月集計分より計測方法変更あり	①集計に使用しているGoogleアナリティクスの仕様変更(移行)に伴い、計測方法が期中で変更となり全体的にPV数が下がることとなったため、前年度との単純比較は難しい状況であるが、実質的には目標を達成したとみなしている。		
	②(発信力・影響力)(公-03)サマーフェスティバルにおけるサントリーホール／サントリー芸術財団委嘱作品(世界初演)数と日本初演数	②委嘱作の世界初演数:4作品 日本初演数:1作品	②委嘱作の世界初演数:4作品 日本初演数:9作品	②計画通りに委嘱作品の世界初演を実施した。また、目標設定後の詳細調査により、日本初演の作品が多くプログラミングされていることが判明(特にテーマ作曲家のフィリップ・マヌリの作品だけで5曲)、日本の聴衆に新しい作品を紹介できた。		
人材養成事業	③(発信力・影響力)【助成対象事業外】当館が直接招聘する海外オーケストラの国内他館での公演回数	③ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(レジデント・アーティスト):4回 ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団:3回	③ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(レジデント・アーティスト):4回(川崎、浜松、大阪、福井) ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団:4回(大阪、富士、名古屋、高崎)	③11月にウィーン・フィル、1月にウィーン・フォルクスオーパーを招聘し日本ツアーを実施、いずれも良質な公演を全国各地に提供することができた。		
	①(発信力・影響力)(人-02)(人-03)サントリーホール アカデミー研修生・修了生の国内外での活躍実績	①(人-02)オペラ・アカデミー 国内外のプロのオペラ・プロダクションやフェスティバル公演への出演、オーケストラ公演でのソリスト、コンクール入賞等 (人-03)室内楽アカデミー 室内楽アンサンブルでの国内外のフェスティバル公演出演、国内外コンクール入賞、プロ・オーケストラ所属(個人)等	①(人-02)オペラ・アカデミー:主要オペラ公演でのキャスト出演(代役含む)国内 5件、海外 3件 /海外マネジメント新規所属 1件 (人-03)室内楽アカデミー:ホノルルでの音楽祭参加1件(葵トリオ)、海外マネジメント新規所属1件(ケルテット・インテグラ)、サヴァリッシュ財団(ドイツ・ミュンヘン)での演奏会出演1件(ほのカルテット)	①フランクフルト歌劇場『タンホイザー』ヴェーヌス役(土屋優子／ジャンブイン)、兵庫県立芸術文化センター佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ『蝶々夫人』題名役(迫田美帆)、井上道義指揮 全国共同制作オペラ『ラ・ボエーム』ミミ役(中川郁文)、東京・春・音楽祭リッカルド・ムーティ指揮『アイダ』エジプト国王役(片山将司)、伝令役(石井基幾)など、国内外の一流プロダクションにおけるオペラ・アカデミー修了生の国内外での活躍が目立った。室内楽アカデミーにおいても、左記の実績に加え、NHK交響楽団、読売日本交響楽団をはじめ全国各地のプロオーケストラに修了生が在籍、室内楽で培ったアンサンブル能力が認められ、活躍している。なお、現役生のほのカルテットの海外での招待演奏は、大阪国際室内楽コンクール2023の第2位およびアンバサダー賞受賞によるものである。		
普及啓発事業	②(発信力・影響力)(人-02)(人-03)サントリーホール アカデミー研修生の研修に対する反応	②研修生との面談等個別ヒアリングまたはインタビューで高評価を得る	②(人-02)オペラ・アカデミー:1年目修了時の個人面談での高評価獲得／(人-03)室内楽アカデミー:第7期フェローインタビュー(公式ホームページ掲載)での高評価獲得	②オペラ・アカデミーでは1年目修了時に個人面談を実施。このアカデミーの特徴である「他人の歌を聴いて学ぶ」、「発声・イタリア語の発音の基礎」という点で研修内容が高く評価された。室内楽アカデミーでは第7期修了のピアニスト2名にインタビューを実施、ファカルティからは楽譜の読み方はもちろん、「演奏家としてのあり方を学ぶ機会も頂いた」との回答を得た(当館HPに公開)。		
	③(発信力・影響力)(人-02)(人-03)サントリーホール アカデミーの研修生に対する指導陣からの評価	③研修会レポートやファカルティ会議等で研修生の成長度合いや今後の課題を確認する	③(人-02)オペラ・アカデミー:出講ファカルティによる研修会レポートの内部共有／(人-03)室内楽アカデミー:(公-01)CMG フィナーレ出演に向けた選抜演奏会による選考結果	③オペラ・アカデミーでは出講ファカルティが毎回異なるため、研修会レポートを定期的にファカルティと事務局で共有し、個々人の進捗状況を把握するようにした。また、室内楽アカデミーにおいては、4月の研修会が(公-01)CMG選抜演奏会を兼ねており、ファカルティ会議を経て、優秀なグループがCMGフィナーレでの単独出演の枠を獲得している(令和6年度は2団体)。		
普及啓発事業	①(発信力・影響力)全事業の参加者数	①すべての普及啓発事業の総参加者数目標:34,980名	①すべての普及啓発事業の総参加者数実績:46,387名	①総参加者数は目標値より132.6%増加。特に(普-01)オープンハウス、(普-04)ARK Hills Music Week、(普-05)オルガン ブロムナード コンサートにおいて目標値を大きく上回った。		
	②(発信力・影響力)新規来館者の割合	②(普-01)オープンハウス 20% (普-02)いろいろドレドレ 25% (普-03)オルガン研究所 15% (普-05)オルガン ブロムナード コンサート 5%(アンケート回答より集計)	②(普-01)オープンハウス 22.6% (普-02)いろいろドレドレ 9.5% (普-03)オルガン研究所 25% (普-05)オルガン ブロムナード コンサート 8.8%(アンケート回答より集計)	②いずれも長年開催している企画ばかりであるが、SNSでのターゲットをしぼった広告展開や、音楽業界外でのチラシ配布・配架により、概ね設定した目標を達成した。		
普及啓発事業	③(発信力・影響力)参加者の満足度(※アンケートの5段階評価で上位2段階の回答率)と評価	③(普-01)オープンハウス 満足度90%以上 +自由意見での高評価 (普-02)いろいろドレドレ 満足度85%以上+自由意見での高評価 (普-03)オルガン研究所 満足度85%以上+自由意見での高評価 (普-04)ARK Hills Music Week 満足度85%以上+自由意見での高評価 (普-05)オルガン ブロムナード コンサート 満足度90%以上+自由意見での高評価	③(普-01)オープンハウス 満足度92.5% +自由意見での高評価多数 (普-02)いろいろドレドレ 満足度90.5%+自由意見での高評価9件 (普-03)オルガン研究所 満足度100%+自由意見での高評価4件 (普-04)ARK Hills Music Week 満足度95.8%+自由意見での高評価多数 (普-05)オルガン ブロムナード コンサート 満足度91.8%+自由意見での高評価5件(11公演平均)	③すべての普及啓発事業において設定した目標を達成した。来場者からは、それぞれに企画内容や音楽面について高評価を得たが、その一方、(普-01)オープンハウスでの混雑対策や、(普-02)いろいろドレドレでのボランティア学生への対応など一部改善を求める声、また33年間続いた無料公演(普-05)オルガン ブロムナード コンサートの終了を惜しむ声もあった。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(公-01)CMG:令和7年3月 第37回(2024年度)ミュージック・ベンクラブ音楽賞(室内楽・合唱部門)を受賞。

「ミュージック・ベンクラブ音楽賞」は、「クラシック」「ポピュラー」「オーディオ」の三分野のもと、音楽関係の言論・執筆活動に携わっている評論家、ミュージック・ライター、音楽学者、作曲家、演奏家、文芸評論家など約130名で構成する「ミュージック・ベンクラブ・ジャパン」が毎年発表している賞で、同賞はその年に公開または発表された音楽界の全プロダクツやイベントを対象とし、各分野で授賞対象者・団体をノミネートし、最終的に全会員の分野を超えた投票によって決定されるものである。「サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン (CMG)」は、2011年以来、国内最大規模の室内楽フェスティバルとして、国境や世代を超えた奏者が集い、室内楽の興隆に貢献していることが高く評価され、クラシックの室内楽・合唱部門での受賞となった。

【受賞理由】

内外の一流の団体によるベートーヴェンの弦楽四重奏曲の全曲演奏チクルスを柱に、さまざまな編成の室内楽を紹介するスタイルを定着させた。堤剛を中心に優れたアーティストが常連となり、人脈を広げていることも頼もしい。昨年の小菅優プロデュースの《月に憑かれたピエロ》は、その代表例となる素晴らしい企画だった。室内楽アカデミーで学んだ葵トリオやケルテット・インテグラなどに、早くから実演の機会を与えた功績も大きい。(2024年度音楽賞選考委員:山崎浩太郎氏)

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)(海外・訪日外国人向けPR)国内のみならず海外に向けて情報発信を行っている。

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①(国際プレゼンスの向上／国際交流)主催事業における外国人出演者・作曲家・指導者の人数	①助成対象事業全体で30名(うち弦楽四重奏団4団体)、助成対象外事業を含めすべての主催事業で260名(海外オーケストラ3団体 ※共催含む)、計290名(前年比126.5%)	①助成対象事業全体で31名(うち弦楽四重奏団4団体)、助成対象外事業を含めすべての主催事業で263名(海外オーケストラ3団体 ※共催含む)、計293名	①ヨーロッパを中心に、300名近い外国人アーティストが主催事業に出演あるいは指導で関わった。うち当館が直接招聘した人数は約6割の175名(オーケストラ2団体、弦楽四重奏団1団体含む)におよび、外国人アーティストと直接密なコミュニケーションがとれた。		
②(新たな創客への取組)インバウンドサイトからのチケット購入	②令和6年度全体(主催・他催含む)で4,000枚(前年比約110%) (公-01)CMG: 8か国50枚 (公-03)サマーフェスティバル: 8か国30枚	②令和6年度全体(主催・他催含む)で4,906枚(公-01)CMG: 13か国74枚 (公-03)サマーフェスティバル: 14か国101枚	②当館は、貸館公演を含めたすべての公演について英語版の公式サイトに情報を公開しており、ほぼすべての主催公演および大ホール of 主要な貸館公演ではインバウンドサイトを作成している。コロナ禍からの脱却と円安等の影響による訪日外国人数の増加に伴い、インバウンドサイトからの年間購入数は目標の122.7%と大きく上回る結果となった。また、公演事業(公-01)(公-03)における購入枚数および購入者の居住国数も目標を大きく上回った。		
③(海外・訪日外国人向けPR)主催事業の海外向け英文リリース発信	③助成対象事業全体で4件、助成対象外事業を含め7件(前年度と同数)	③助成対象事業全体で3件(公-01: 2件、公-03: 1件)、助成対象外事業を含め8件	③当館は国際的アーティストが出演する主催事業において英文リリースを発信しており、それが海外サイトでの公演紹介やbacktrackでの批評などにつながっている。具体的には、公演紹介(公-03)1件、backtrackでの批評(公-01)2件、その他助成対象外事業における公演紹介3件となり、インバウンドサイトでの購入増に貢献した。また、当館が会員となっているAAPPAC(アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟)の20か国76団体の会員向けニュースレター(年4回)における告知にも、この英文リリースを活用している。		
④(海外・訪日外国人向けPR)主催事業の英語版SNS(Facebook、X)投稿	④助成対象事業全体で90件、助成対象外事業を含め320件(前年比約110%)	④助成対象事業全体で81件(X: 31件、Facebook: 50件)、助成対象外事業を含め257件(X: 107件、Facebook: 150件)	④総投稿数としては目標値を下回る結果となったが、SNSでも十分なPRを展開でき、②で述べた通りインバウンドサイトからのチケット購入増に貢献できた。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・ドイツのオーディオ専門誌「HIFI.DE」のWEBサイト内記事「世界最高のコンサートホール10選」(10月28日掲載)にサントリーホールがアジア圏で唯一選出された。 https://hifi.de/feature/die-10-besten-konzertsaele-der-welt-160939 ・サントリーホールが中国の作曲家・譚盾氏に委嘱したオペラ『TEA』が令和7年3月29日・30日に中国・福建省の福建大劇院(Fujian Grand Theatre)で上演され、主要キャストの一人として、サントリーホール オペラ・アカデミー修了生の石井基幾(テノール)が唐の王子役で出演した。令和5年6月7日・9日に日本人キャストとして初出演を果たした上海歌劇院オペラハウスでの歌唱が作曲家本人に高く評価され、2度目の出演につながった。委嘱者として、また育成機関としての両面から当館のプレゼンスを高めることができた。 https://www.chinaservicesinfo.com/s/202503/13/WS67d28d3f498eec7e1f731bb5/tan-duns-opera-to-be-performed-in-fujian.html https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/article/detail/001288.html

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※今年度も引き続き多彩な主催者にホールを利用いただく。 ・自由設定の観点(任意)(防災)港区との災害協定に基づいた民間一時滞在施設として、有事に備えお客様の安全安心を守るための研修・訓練を定期的に行っている。

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標		実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①(文化拠点／地域連携)(人-02)(人-03)サントリーホール アカデミー研修生・修了生の地域イベント出演とその評価	①(普-01)オープンハウス、(普-04)ARK Hills Music Week、赤坂区民ホール主催事業、東京文化会館主催アフタヌーン・コンサート等への出演により、お客様アンケートやSNS等で高い評価を得る	①(普-01)オープンハウス来場者アンケートでのアカデミー公演に関する自由意見高評価3件／赤坂ふれあいコンサートの来場者アンケート満足度95.1%、自由意見高評価多数、東京文化会館主催アフタヌーン・コンサートの来場者アンケート自由意見高評価2件	①オープンハウスのアンケートでは「さすがサントリーの選考をクリアした方々。無料で一日中聴けてなんとも贅沢な体験だった」「どちらかというとオペラ避けてたので、生歌に度肝抜かれました」といった自由意見があった。また、オペラ・アカデミー生が出演した赤坂区民ホール主催「赤坂ふれあいコンサート」は来場者の満足度が非常に高く、「サントリーホールオペラアカデミーのコンサートは毎年行ってほしい」という回答もあった。室内楽アカデミー生が出演した東京文化会館主催アフタヌーン・コンサートの来場者アンケートでは、若手5組の演奏に対し、「カルテット・ルーチェが印象に残った」「カルテット・ルーチェはハーモニーの美しさ、力強さが魅力了されました」という回答があった。よって、設定した目標を達成したといえる。		
②(地域連携)(普-04)ARK Hills Music Weekにおける地域の参画団体数とイベント全体の参加者数	②地域(港区赤坂アークヒルズ周辺エリア)の参画団体数15団体、イベント全体の参加者数15,000名(前年同規模)	②地域(港区赤坂アークヒルズ周辺エリア)の参画団体数15団体、イベント全体の参加者数18,000名(前年比120%)	②本音楽祭の参画施設が神谷町・虎ノ門エリアに3施設増え、さらにエリア内回遊性を高める新規施策として7か所にそれぞれ特徴のあるストリートピアノを設置したことで、接点拡大(参加者数増加)につながり、設定した目標を達成した。		
③(子どもへの機会提供) 鑑賞と体験を組み合わせた子ども対象事業(有料公演)の券売率	③(普-02)いろいろドレドレ、(普-03)オルガン研究所ともに90%以上達成	③(普-02)いろいろドレドレ:86.2%(4公演平均)、(普-03)オルガン研究所:100%	③(普-02)いろいろドレドレについては、入場料値上げによる影響が全体的に例年より券売が伸び悩み、特に金曜午後の回に残席が目立った。一方、(普-03)オルガン研究所は、SNS広告の効果もあり、完売となった。		
④(ホール利用サービスの向上)前年度稼働率 ※・公演数の維持 ※稼働率(貸出件数÷営業可能日数)	④大ホール稼働率104% 350公演 ブルーローズ稼働率94% 264公演	④大ホール稼働率107% 369公演 ブルーローズ稼働率94% 262公演	④令和6年度も多彩な主催者に利用いただき、大ホール、ブルーローズともに設定した目標を達成した。また、空き楽屋は(人-02)(人-03)サントリーホール アカデミーの練習場所としても活用した。		
⑤(防災)職員および協力会社スタッフを対象とした普通救命講習の実施	⑤職員の受講率100%維持、協力会社スタッフの受講率90%以上	⑤職員の受講率100%維持、協力会社スタッフの受講率81.9%	⑤計画通り7月に実施し職員の受講率は100%を維持したが、令和6年度は夏以降も協力会社のスタッフの入れ替わりが多く、救命講習の機会は年1回と限られているため、結果的に受講率が低下した。ただし職員とあわせた受講率は90%超と非常に高いもので、東京消防庁から表彰された(下記(2)参照)。		
⑥(防災)定期的な自衛消防訓練(震災対策を考慮した避難訓練)の実施	⑥年2回の継続実施、職員および協力会社スタッフの参加人数1回あたり90名以上	⑥10月実施分:職員および協力会社スタッフの参加人数 94名 3月実施分:職員および協力会社スタッフの参加人数 84名	⑥計画通り10月と3月に年2回実施し、ほぼ想定通りの人数が参加した。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・令和6年9月 東京消防庁「第11回地域の応急手当普及功労賞」の最優秀賞(消防総監賞)受賞 従業員の9割以上が救命講習を受講し、長年に渡り実災害に即した救護訓練を積み重ねていることが高く評価された。
・令和6年11月 東京消防庁「優良防火対象物の防火安全の維持に対する功労(7年)予防部長表彰」受賞 平成28年に優良防火対象物の防火安全の維持を10年間継続したことによる消防総監賞の受賞から、同項目を更に7年間継続したため。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①(プログラムの多様さ／参画者の多様さ)継続した複数日程で開催するフェスティバル事業におけるコンテンツ数と参画者数、その属性の幅広さ	①(公-01)CMG コンテンツ数:21公演(16日間)、参画者数と属性:10～20代の室内楽アカデミー研修生(人-03)26名から30～50代の中堅、60～80代の巨匠まで、外国人17名を含む総勢74名が出演／(公-03)サマーフェスティバル コンテンツ数:8公演(8日間)、参画人数と属性:20代の若手作曲家・演奏家から、30～60代の中堅作曲家・演奏家、70代のベテラン作曲家や創設50周年を迎える弦楽四重奏団まで、外国人6名を含む総勢32名の作曲家・演奏家と国内オーケストラ2団体が参画／(普-04)ARK Hills Music Week コンテンツ数:約100プログラム(10日間)、参画人数と属性:オフィスビル、レストラン、ホテル、大使館、美術館、科学館、楽器メーカー、音楽事務所、舞台運営会社など多様な業種のスタッフ総勢100名以上が参画	①(公-01)CMG コンテンツ数:21公演(16日間)、参画者数と属性:10～20代の室内楽アカデミー研修生(人-03)26名から30～50代の中堅、60～80代の巨匠まで、外国人17名を含む総勢74名が出演／(公-03)サマーフェスティバル コンテンツ数:8公演(8日間)、参画人数と属性:20代の若手作曲家・演奏家から、30～60代の中堅作曲家・演奏家、70代のベテラン作曲家や創設50周年を迎える弦楽四重奏団まで、外国人6名を含む総勢33名の作曲家・演奏家と国内オーケストラ2団体が参画／(普-04)ARK Hills Music Week コンテンツ数:93プログラム(10日間)、参画人数と属性:オフィスビル、レストラン、ホテル、大使館、美術館、科学館、楽器メーカー、音楽事務所、舞台運営会社など多様な業種のスタッフ総勢100名以上が参画	①左記の通り、計画通りに幅広い属性、年代のアーティストやスタッフが参画し、多様なプログラムを提供できた。とりわけ、(普-04)のARK Hills Music Weekでは、音楽業界外からも多様な業種の人々が関わり、街をあげて地域の音楽祭を盛り上げるべくネットワークを構築できている。		
②(アクセシビリティ)(公-01)チェンバーミュージック・ガーデン CMGスペシャルへの都立特別支援学校生徒(肢体不自由または知的障がいの児童・生徒)受入の対応状況と参加者の評価	②近隣施設の協力・理解のもと、開場時に合わせ複数台のバスや介護タクシーで来場する特別支援学校の生徒たちを同時に受入れ、車椅子やストレッチャーの利用者について、おむつ替えやお手洗い対応など学校側の要請に応じ必要な対応が十分にできる。また、公演内容や受入対応について、参加者(引率の先生や保護者)から高い評価を得る。	②近隣施設の協力・理解のもと、開場時に合わせ様々なサイズのバス計10台と介護タクシー2台で来場する特別支援学校の児童・生徒76名(引率者込124名)を同時に受入れ、車椅子やストレッチャーの利用者について、おむつ替えやお手洗い対応など学校側の要請に応じ必要な対応が十分にできた。また、公演内容や受入対応について、参加者(引率の先生)から高い評価を得た。	②特別支援学校の児童・生徒の受入にあたり、担当者が事前に動線確認や交通関係、福祉関係の綿密な打ち合わせを行い、当日は企画制作部のスタッフ総出で複数の乗降箇所からのアテンドを行った。それに対し、参加校の先生から感謝の声が届いた(下記エピソード参照)。		
③(アクセシビリティ)0才から誰もがが無料で参加できるイベントの参加者数と参加者満足度(※アンケートの5段階評価で上位2段階の回答率)	③(普-01)オープンハウス:8,000名、満足度90%以上／(普-04)ARK Hills Music Week カラヤン広場でのライブ・ビューイングおよびミュージック・マルシェ:計4,500名、満足度85%以上／(普-05)オルガン ブロムナードコンサート 6月の親子対象公開リハーサル:30組60名、満足度80%以上	③(普-01)オープンハウス:13,667名、満足度92.5%／(普-04)ARK Hills Music Week カラヤン広場でのライブ・ビューイングおよびミュージック・マルシェ:計5,500名、満足度95.8%／(普-05)オルガン ブロムナードコンサート 6月の親子対象公開リハーサル:28組62名(うち子ども34名)、満足度81%	③参加者数、来場者アンケートの満足度ともにすべて目標を達成した。		
④(アクセシビリティ)インバウンドサイトからのチケット購入	④令和6年度全体(主催・他催含む)で4,000枚(前年比約110%)／(公-01)CMG:8か国50枚／(公-03)サマーフェスティバル:8か国30枚	④令和6年度全体(主催・他催含む)で4,906枚／(公-01)CMG:13か国74枚／(公-03)サマーフェスティバル:14か国101枚	④当館は、貸館公演を含めたすべての公演について英語版の公式サイトに情報を公開しており、ほぼすべての主催公演および大ホールの主要な貸館公演ではインバウンドサイトを作成している。コロナ禍からの脱却と円安等の影響による訪日外国人数の増加に伴い、インバウンドサイトからの年間購入数は目標の122.7%と大きく上回る結果となった。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(公-01)CMGスペシャルについて、参加した特別支援学校の先生からは、下記の通り児童・生徒への気づきや、スタッフの対応への感謝の声をいただいた(抜粋)。 「子ども達は音楽が始まったとたん笑顔になったり、眠そうにしていた子がハッと起きてらんらんと目を輝かせたりしていました。どの子ども音楽に魅了されておりました。」 「学校に来られて演奏していただくコンサートも素晴らしいものがあります。ただ、サントリーホールという環境で聞くことは耳だけでなく身体で音色を体感できたと感じました。サントリーホールだから体感できた音色や雰囲気だったと思いました。演奏している間は演奏に耳を傾けている生徒の姿勢、演奏が終わった時の拍手など、これから社会人になる生徒にとってはキャリア教育の視点からも良い勉強になりました。」 「知的障害(多くは自閉症)、肢体不自由、内部障害のある子供たちです。それぞれの特性から音楽会にはあこがれがあっても、躊躇することが多いと保護者からもうかがっています。医療的なケアが必要としている本校生の数人は、校外学習は保護者の付添とケアが不可欠であるため、お仕事の遣り繰りを付けて、同行していただきました。貴重な機会を大変喜ばれていました。看護師が常時処置しながら健康の安定を図り、鑑賞に参加できた方もいました。単に音楽会へ招待いただくだけでなく、そうした対応するスペース、柔軟な時間配分、リフトスペース迄加味した複数の送迎バス乗降場所等、諸条件が整わないと、安心して参加でき辛いお子さんたちです。サントリーホールの皆様は、笑顔でのお迎え、柔軟な判断をすぐに返してくださいました。さらに階下のバス発着場まで御案内くださるなど、心からお迎えくださるなかで、「楽しむ時間を持ってほしい」とのプロのホスピタリティが、心が温まる時間に結実いたしました。」

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
(価値観の内部共有)サントリーホールのミッション・ビジョンの実現に向けて、ホールの持続的な価値構築ならびに今後の事業計画・運営のよりどころや指針となるべく新たに制定した「サントリーホールの理念」(令和5年度制定)をすべての職員および協力会社スタッフと共有している。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「理念」を記した小冊子の全職員・協力会社スタッフへの配布とレクチャー実施	全職員・協力会社スタッフの小冊子配布率100%、全体会議(年1回)内での概要説明実施	・全職員・協力会社スタッフの小冊子配布率100% ・年度初めに理念に基づく各自の行動目標設定 ・全体会議(年1回)内での概要説明実施 ・新規採用職員および設置者からの新規出向者への理念レクチャー実施	財団及び協力会社の年度活動計画において、理念をベースとした活動プランが立案されており、理念の浸透、実践への貢献が確認できている。		

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。			・公的助成:2件(アーツカウンシル東京／ ローム ミュージック ファンデーション) ・協賛:主催事業全体で5社	公的助成のみならず企業協賛金を複数社継続して獲得しており、多様な財源を確保できた。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。			・R6年度主催公演の入場者率:前年比 5.4 ポイント増 ・ホール会員数 前年比111.6%(令和7年3 月末現在)	広報部と企画制作部で主催公演ごとにPR会議を実施。各公演の特性にあわせたPR施策を展開し、主催公演の入場者率が増加した。会員数も増加している。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。			・(公-01)での他館連携:5館 ・(公-03)での他館連携:3館 ・(普-05)での他館連携:3館 ・当ホール招聘オーケストラ(助成対象外事業)による他都市公演:全国7館8公演	公演事業とオルガン普及事業において他館と事業連携を行うことで、渡航費などの費用負担を軽減できた。また、助成対象外事業の海外オーケストラ2団体について招聘者として全国7館で8公演を実施、効率的な事業運営を行った。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。			・当財団主催の月次会議に設置者が出席、 当財団の活動・成果の進捗を設置者が適切 に把握 ・当財団と設置者幹部の両者協議のもとで 年間予算を決定	設置者からの出向者を迎えることで、設置者の意志をより綿密に反映できる組織体制を整えている。特にCSR推進部とは定期的な会議の場を設け、予実把握と成果や課題の共有により、財団活動運営の協力体制を強化している。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。			・世界的音楽家が館長／財団代表理事の ポストに配置されている(16年目)	世界的チェリストで令和6年度文化勲章受章者の堤剛が2009年より館長および当財団代表理事に就任、長年に渡り当ホールの芸術面を統括している。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。			・設置者からの出向者が総支配人に配置さ れている(6年目)	設置者からの出向者が総支配人として着任し、同じく設置者からの出向者である財団専務理事と密に連携をとりながら経営実務にあたっている。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。			・3名のキャリア採用実施(企画制作部、広 報部、運営2部配属)	専門性の高い担当部署において、業界内のキャリア採用を行った。また、舞台や防災面での専門人材を継続して確保している。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。			・各職位において、音楽業界経験者や設置 者からの出向者が適切に配置されている	専門性と管理マネージメントがバランスよく発揮できる組織体制が実現できている。財団職員に対しては4段階の資格・等級制度を定めており、年3回の面接をもとに考課を行い、各自のキャリアに応じた役割分担を行っている。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。			・20代1名、30代1名、40代1名の新規雇用 (キャリア採用)	左記の通り、年齢バランスを考慮した人材確保を行っている。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。			・女性管理職比率:45%	女性管理職の比率は高く、経営責任者である総支配人も女性が務めている。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。			・令和6年度は該当者なし	財団内で育児・介護等の支援制度を整備・推進しており、令和5年度は男性初の育児休暇取得者を輩出した。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。			・eラーニング受講:年3回 6-7月:サステナビリティ(人権) 9-10月:防災・減災 10-11月:情報セキュリティ	設置者に準じ、情報セキュリティ、サステナビリティ(人権)、防災・減災など各種eラーニングの受講を全職員に義務化している。また、設置者策定の「サントリーグループ企業倫理綱領」が小冊子として財団全職員に配布され、それをもとに定期的に職場ディスカッションを実施している。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。			設置者の専門部署(コンプライアンス推進部)による指針周知に向けた全職員向けメール配信数:年4回	設置者が策定した「サントリーグループ共通行動指針」の中で各種ハラスメント防止のための指針が明記されており、専門部署(コンプライアンス推進部)が社内イントラや社内メールを通じて周知に努めている。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。			・全主催事業における契約書締結	すべての主催事業において出演者と適正な契約書を交わした。また、共催者などの関係先とも覚書あるいは契約書を締結した。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

当館が掲げる2つのミッション(「生活の中の楽しみとして音楽を根づかせ、人々がより豊かな人生を送ることに貢献する」「音楽文化の継承と発展に貢献する」とビジョン(「世界最高峰のホールとして、音楽文化を牽引する存在となる」)、さらに当ホールの持続的な価値構築ならびに今後の事業計画・運営のよりどころや指針となるべく新たに制定した理念(「サントリーホールは、音楽の力で人の生命が輝く瞬間をつくる」))に基づき、令和6年度を含む中期計画においては、下記3つの活動方針を掲げている。

1. 「コンサートを楽しむ文化」を最高の形にして社会に提供する
2. 音楽文化の次なる担い手を育てる
3. ホールの発展を支える「基盤」を強化する

これに沿うかたちでほぼ計画通りに自主事業を展開し、そのすべてにおいて設定した目標を概ね達成することができた。

●公演事業

・(公-01)サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン(CMG)は、「2.公演事業の実績記録と自己評価」で触れた通り、2011年の開始以来、国内最大規模の室内楽フェスティバルとして室内楽の興隆に貢献していることが評価され、第37回(2024年度)ミュージック・ベンクラブ音楽賞(室内楽・合唱部門)受賞の榮譽に浴した。中でも、CMGプレミアム 小菅優プロデュース『月に憑かれたピエロ』は、音楽の友2月号「コンサート・ベストテン2024」上位20公演において、オペラやオーケストラ公演がランクインする中で第13位(タイ)を獲得したほか、海外評(backtrack)でも4つ星を獲得した。

・(公-03)サマーフェスティバルについては、国内における最大規模の「現代音楽の祭典」として長い歴史を誇り、その企画内容に対しては毎年安定した評価を得ているものの、集客や収益率の低さが長年の課題であった。コアファンのみならず広く一般に向け様々なメディア・媒体においてターゲット別のPR強化に取り組んだことで、有料入場者数こそ目標にわずかに及ばなかったものの、前年度の数字は上回ることができた。また、他の公的助成金を獲得したことで、収益率は交付申請書提出時点から18ポイント改善することができた。

・助成対象外事業ではあるが、上記の「コンサート・ベストテン2024」ランキングにおいて、第53回サントリー音楽賞受賞記念コンサートとして開催した濱田芳通&アントネッロの『リナルド』が第4位(タイ)を、当館がレジデント・アーティストとして日本における独占契約のもと直接招聘している「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」(指揮:アンドリス・ネルソンス、ヴァイオリン:五嶋みどり)が第13位(タイ)を獲得した。さらに、貸館公演を含めるとランキングの半数を超える11公演がランクインしていることになり、当館で行われる公演の質の高さを裏付ける結果となった。

・(公-01)CMG、(公-03)サマーフェスティバル、助成対象外事業のウィーン・フィル来日公演といった大型主催事業では、公演事業を軸としながらも、(人-03)室内楽アカデミーや作曲ワークショップ、ウィーン・フィル奏者による公開マスタークラスなどの人材養成の取り組み、さらに室内楽の普及のための新企画「廣津留すみれの室内楽ラボ」、特別支援学校の児童・生徒の招待公演「CMGスペシャル」(以上、公-01)、設置者社員向けの現代音楽事前レクチャー(公-03)、中高生向けの鑑賞教室「ウィーン・フィルの青少年プログラム」といった様々な普及啓発の取り組みも展開し、複合的な事業として実施した。

●人材養成事業

・(人-02)オペラ・アカデミーは、①創造性・企画性や②国際性で触れた通り修了生の国内外での活躍が目立ち、上記の「コンサート・ベストテン2024」にランクインしたムーティ指揮東京春祭オーケストラによる演奏会形式のオペラ公演『アイーダ』(第11位タイ)および『アッティラ』(第1位)でも、3名がソリストあるいはカバーキャストとして出演するなど、上質なプロダクションに関わることができた。一方で、現役生については、個々人の事情で期中での退会が重なり、計画していたアンサンブル公演の開催見送りという事態になった。国内外で活躍できる修了生を輩出し続けられるよう、来年度以降はより運営体制を充実し、研修内容のブラッシュアップを図りたい。

・(人-03)室内楽アカデミーは、現役生の「ほのカルテット」が大阪国際室内楽コンクールの副賞としてドイツ・ミュンヘンで招待演奏を行うなど、着実に成果を上げている。来年度以降も安定した運営に取り組んでいく。

・(人-02)(人-03)ともに公演事業や普及啓発事業への出演機会を積極的に創出、人材養成事業単独ではなく、有機的に関連させている。また、収益が見込めない事業のため、安定した事業運営ができるよう民間企業の大型協賛を獲得、その企業店舗での地域コンサートをはじめ、館内外で様々な演奏の場を創出し、育成機関としてのプレゼンスを高め、認知度向上の点でも成果を上げることができた。

●普及啓発事業

・当館のハード、ソフト(人-02、03含む)両面の魅力を多角的に伝える誰もが参加できる無料イベント(普-01)、内部資源(当財団所属のサントリー美術館／大ホールのオルガン)を活用した子ども向け体験型事業(普-02、03)、当館地域の文化資源が集結した地域の音楽祭(普-04)、開館5周年から継続してきた平日昼間のオルガン普及事業(普-05 ※今年度で事業終了、来年度より有料の新規事業を開始)と、資源を最大限に活かした多彩な普及企画を展開した。普及啓発事業全体の参加者数は46,387名と目標値より132.6%増加し、その中で新規来館者も一定の割合で獲得できたため、普及啓発事業として一定の成果を上げたといえる。なお、アクセシビリティ、ダイバーシティへの取り組みは今後より強化すべき課題ととらえている。

●運営体制と持続可能性

・当館の活動方針の3つ目に掲げている通り、ビジョンの実現に向けてサステナブルに価値を生み出し続けるためには、事業の基盤となる「収益力」「人・組織」の安定化・強化は欠かせない。そのため、⑥運営体制と持続可能性の項に記した通り、館全体で長期的視点をもって重点的に取り組んでおり、今年度の活動においては求められる項目をすべてクリアしたといえる。なかでも、物価・人件費高騰や円安の影響など様々なコスト増が不可避となっている昨今において、収益確保のために今回助成をいただけたことは大変ありがたく、その効果は絶大であった。また、民間施設ながらも地域の防災拠点としての自覚を持ち、お客様の安全安心を守るための救護訓練、防災訓練を積み重ねたことで、東京消防庁から2件表彰を受けた。

以上のことから、3つの活動方針に基づいた当館の事業について戦略的に実施し、そのすべてにおいて設定した目標を概ね達成したと自己評価する。

・ 所見

